



東運局貨物課長 片平 明宏

したい」と話すのは、東北運輸局自動車交通部の片平明宏貨物課長(49)。総務部安全防災危機管理課で課長を務めた後、4月に着任した。業界の改革に伴い、法律の改正についての周知活動

しても、商慣行の見直しや物流の効率化に向けた行動変容を促したい」としており、トラック運送事業者にも「事業許可更新制や適正原価の收受といった未施行の法律について、置かれていられる事業者がないよう、意識を徐々にでも高める手伝いができれば」と語る。トラック・物流Gメンの活動についても周知活動に引き続き注力し、働き方や

貢献していく。ヒアリングを行う職員のスキルの底上げも図り、合同パトロールの機会も増やしたい考え。人手不足が課題とされる時代だが「求職者はさまざまな業界と比較した上で就

ことが必要」と述べる。これまで取り組んできた高校訪問などを続けながら、マテハン機器やパレットの活用促進を通じて、どんな人でも働きやすい環境を構築していくことが大切だと話す。「物流の効率化が徐々に進んできているが、高年齢ドライバーの引退に伴う人材の不足に対応するには、さらなる取り組みが必要と



### 「働きやすい環境

していきたいと展望する。1997年に入省し、気仙沼海運支局からキャリアをスタート。同僚とフットサル部を立ち上げるなど、余暇もアクティブに過ごしてきた。また、2人の子どもの父としての顔も持ち、単身赴任中も自宅へ帰り、長女たちとバドミントンを楽しみながら成長を見守ってきた。宮城県東松島市出身。(稲井日菜子)

「物流業界での女性活躍推進に向けて一丸となって取り組もう」と須藤部会長



副部会長(仙台中央運送)は退任し、後任に丸鶴理香

旭山(湯野)日、子業体験プ! トラック 同イ わ創造 辺直行 川商丁(会頭)

### 光輪ロジ

## チャオヤン北海道PJ推進

### 来月メド 秋には保管・商談拠点

光輪ロジステイクス(沼崎孝則社長、北海道登別市)は、中国タイヤメーカー・ZCラバーのトラック用タイヤ「CHAOYAN G(チャオヤン)」の道内での普及に向け、「チャオヤン北海道プロジェクト(PJ)」を推進する。8月をメドに、光輪ロジが北海道総代理店となり、道内各地の販売店から商品を提供できる体制を目指す。秋

には札幌市清田区にタイヤの保管と商談スペースを兼ね備えた拠点を設ける。全道を5地区に分け、各エリアを取りまとめる管理店1店舗と、販売店を設置。北海道総代理店の光輪ロジから管理店にタイヤを供給して在庫しておき、各販売店は管理店から仕入れて運送事業者などに売ってメンテナンスなどを担当する作業店も置く。タイヤ専

門店を中心に提携先を広げており、8月ごろの稼働を目指す。9月をメドに、タイヤ事業の専門拠点も光輪ロジで設ける。札幌市清田区の羊ヶ丘通沿いで、アクセシビリティに優れる。タイヤを保管する倉庫機能に加え、ショールームや商談スペースを併設し、ユーザーに実物を見て検討してもらえるようにする。将来的には光輪ロジ



の札幌営業所(石狩市)も同店舗に統合し、タイヤの配送や交換作業を担当する計画だ。同社は2年ほど前からチャオヤンタイヤを活用し、

道内各地の販売店から商品を提供できる体制を目指す。沼崎社長は「低コストな上、国産のものの変わらない使用感

で、トラブルもない」と話す。ユーザーの利便性が高い、北海道独自の供給網を整備することを目的に、チャオヤン北海道PJを立ち上げた。同社のサイトより

現在は北海道エリアの代理店になっている。沼崎社長は「低コストな上、国産のものの変わらない使用感

現在、北海道エリアの代理店になっている。沼崎社長は「低コストな上、国産のものの変わらない使用感

仙台市若林区)と連携して取り組みを進めている。沼崎氏は「両社からは多大な協力をいただいている。タイヤ価格が高騰する中、コスト削減に貢献したい」と話している。(朽木崇洋)

アネットワークの作本貞子副理事長、安島なつき保健師が講演。健康経営に取り組むことの効果や、健康経営優良法人認定取得のポイントを解説した。健康診断に関して、治療と就業の両立支援など、健康経営の手法も説明。高齢になった従業員の健康経営などについても取り上げた。(朽木崇洋)